

---

## 2023 年度全国共同制作オペラはオペラではなくオペレッタ！ 野村萬齋の歌劇初演出、 阪哲朗指揮の《こうもり》（J.シュトラウス二世）を滋賀、東京、山形で

---

2023 年の「全国共同制作オペラ」の演目が決まった。「ワルツ王」のヨハン・シュトラウス二世（1825–1899）が 1874 年に初演した《こうもり（Die Fledermaus）》。オペラがあくまで音楽主体なのに対し歌と芝居、踊りが渾然一体、ミュージカルの原型ともいえるオペレッタの傑作だ。

ウィーンのリッツオペラ、ベルリンのコーミッシェ・オペラなどでオペレッタの経験を積んだ阪哲朗に指揮とキャスティングを委ね、「西洋歌劇を手がけるのは初」という狂言師、野村萬齋を演出に起用した。2023 年 11 月 19 日に阪が芸術監督を務める滋賀県立劇場びわ湖ホール、11 月 25 日に東京芸術劇場コンサートホール、12 月 17 日に山形交響楽団常任指揮者でもある阪の「もう 1 つの本拠地」、やまぎん県民ホール（山形市）で上演する。歌は原語（ドイツ語）、セリフは日本語。5 月 2 日、東京芸術劇場で行われた制作発表記者会見をできるだけ忠実に再現する。

（取材・執筆：池田卓夫＝音楽ジャーナリスト@いけたく本舗®）

### 萬齋起用の仕掛け人はびわ湖、山形は初参加

最初に 3 館の担当者がそれぞれ、共同制作参加の背景を語った。

**びわ湖ホールの村島美也子総括プロデューサー**：「劇場は 1998 年にオープン、2007–2017 年に今とは違う形の共同制作オペラに参加していました。東京芸術劇場とは演劇等の交流があり、『いつかはオペラでも』と話してきました。今年、16 年ぶりに芸術監督が阪に替わり、山形交響楽団とのつながりもできた中、オペレッタということで久々に参加します。萬齋さんは開館記念の、1999 年《三番叟》から毎年欠かさず出演、25 周年の今年は『ぜひオペラの演出も』と、びわ湖から提案させていただきました」

**東京芸術劇場の大島千枝コンサートホール ゼネラル・マネージャー**：「他の 2 館が劇場なのに対し、東京芸術劇場はコンサートホールです。2006 年から独自のシアターオペラを制作、2009 年に全国共同制作オペラに加わりました。以後、休館期間を除きほぼ毎年参加。今回は久しぶりのオペレッタであり、びわ湖と山形に拠点を持つ阪さんの指揮ですので、とても楽しみにしています」

**やまぎん県民ホールの山田和輝事業マネージャー**：「当館は 2020 年 5 月にオープン。山形駅から徒歩 1 分のところにあります。山形交響楽団さんが運営に携わり、しかも阪さんが常任ということで昨年はオペラ 3 演目を『やまがたオペラフェスティバル』の名称で開催しました。全国共同制作オペラには、今回が初めての参加です」

## オペラとオペレッタの違いは能と狂言のそれに似て…

続いて演出家、指揮者、主要3キャストの順で上演構想、それぞれの「《こうもり》観」などが語られた。

**野村萬斎**：「一瞬、場違いと思いました。世阿弥の説く『珍しい花』が、ここでは私です。びわ湖ホールにはオープニング以来25年間、古典から新作まで様々な演目で出演してきたとはいえ、今回の《こうもり》演出ご指名は、『ずいぶん勇気があるなあ』と。20年間務めた世田谷パブリックシアター芸術監督を昨年卒業、『何か違ったことをやりたい』とっていて、オペレッタが新鮮に響いたのも確かです。阪さんとも『せっかくだから、それなりに珍しいものをやろう』と話しています。世阿弥の考えでは『珍しい=良い』です。最初はオペラとオペレッタの違いすら知りませんでした。どうやら、能と狂言の関係に似ています。ならば遊び心満載で、オペレッタの定型を崩してみせましょう。演出の基本は日本の芸能のアイデンティティーです。私のオリジナリティーの側からアプローチした方が、うまく行く気がしています」

「今回はびわ湖、東京、山形と3つの『小屋』を移動します。3館を移動しても等しく通じる舞台はシンプルなものでなければならず、能舞台と同じです。尺貫法では2人なら四畳半、3人なら三間（けん）…と、空間の区切り型が人数と密接に関わります。《こうもり》には合唱が出るので周辺の大きな余地も含め、派手なセットや書き割りを省き、伸縮自在の空間になるはず。オペレッタにはセリフもたくさんあるから、歌手の皆さんにはシンプルであっても、それなりの身体の動きを要求するかもしれません。ヨーロッパの物語を日本に移し替え、お客様に『えっ、オペレッタを観にきたはずなのに』と言わせたいですね」

## 実は、オペラよりオペレッタの方がクリエイティブ!?

**阪哲朗**：「音楽大学（京都市立芸術大学）に入った直後から関西のオペレッタ上演団体の稽古場に出入り、練習ピアノを弾いたり、指揮者が来ない時の代理を務めたりしていました。最初に関わった《こうもり》のフロッシュ役が今回と同じ、桂米團治（当時は桂小米朝）さんです。ウィーンに旅行で行ったのも『オペレッタを観たかったから』であり、以後27年、5年前にヨーロッパから日本に戻るまでずっと、オペレッタを指揮してきました。ウィーン・フォルクスオーパーで知り合った幸田浩子さんをはじめ、今回のキャストは所属団体の枠を越えて全員、私の『一本釣り』です。駆け出しのころ『もっと歳をとらないと（オペレッタは）わからないよ』と言われていた年齢に私も至りました。これまで10ほどのプロダクション（演出）で、3ヶタ以上の公演を指揮したと思います」

「オペレッタはオペラより新しく、ミュージカルより古い。民族色にあふれ、だいたいはウィーン訛りのドイツ語（ヴィーナリッシュ）かハンガリー語の歌詞、ワルツや後にはスローワルツなど踊りの要素もふんだんにあります。キャストの決め手は芝居ができて歌って踊れる総合力。今回は皆さん、芸達者です。中には自分たちだけで盛り上がり、お客様が置いてきぼりを食らう上演もありますが、この顔ぶれなら心配いりません。ウィーンの人には『右目で笑って左目で泣く』といい、京都に似ていますが、それは、

私が ] シュトラウスとともに最も傾倒するモーツァルトに通じる芸術の本質です」

「先ほど萬齋さんから『シンプルな演出プラン』と初めてうかがい、ますます楽しみになりました。例えば鹿鳴館を思い浮かべ、ワルツに日本的な『間（ま）』を入れるとか、無限の想像力の余地があります。映画監督のように萬齋さんと 2 人、芝居のスピードを音楽のスピードとシンクロさせるような試みに挑みたいのです。実は、オペラよりオペレッタの方がより、歌手とのクリエイティブな作業を楽しめます」

### 仮面劇の騒ぎに潜む人間の本質、危険な匂い…

主要キャスト 3 人からも、面白い指摘が続く。

**福井敬**（テノール＝アイゼンシュタイン）：「お 2 人の話を聞いて、ハードルがどんどん高くなるのを感じました（笑）《こうもり》ではバカ騒ぎの喜劇の中に、世紀末の匂いが漂います。『もう 1 人のシュトラウス』、リハルトは同時期に豊麗な管弦楽を書いていたのですから、本当に危険な時代だったと思います。オペレッタを初めて演出する萬齋さんともども、世紀末に生まれた新しい音楽から、さらに新しいものを生み出す作業はとても挑戦的です」

**幸田浩子**（ソプラノ＝アデーレ）：「第 2 幕では全員が別の人物に変身します。誰もがいつも、どこかに持っている変身＝非日常に対する気持ちは古今東西、共通のものでしょう。狂言のように仮面をつけ他の人になればこそ見えてくる本人の本質、内側もあります。非日常を見て再び、日常が愛おしく思えるのです。コロナのパンデミックの後、お客様が共感できる舞台を一緒につくり出していただけるのを楽しみにしています」

**藤木大地**（カウンターテナー＝オルロフスキー公爵）：「オルロフスキーのクプレ（アリア）はヨーロッパの歌劇場でオーディションを受ける際の定番でしたが、何故か実際の舞台上で歌う機会はなく、今回が初役です。元はメゾソプラノ、アルトのために書かれたので、いまだに『何故、男のカウンターテナーが歌うのだ』という声を聞きます。僕の場合は男性の高い声で歌える音域だから歌う、それだけです。長年の野球仲間の阪さんが WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）日本チームの栗山英樹監督なら、僕は太谷翔平選手になったつもりで、オルロフスキーにデビューします」

2023年度 全国共同制作オペラ  
J.シュトラウスⅡ世／喜歌劇『こうもり』

— 開催概要 —

**[滋賀公演]**

日時 2023年11月19日（日）14:00 開演  
会場 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール大ホール  
料金 【全席指定】（税込）  
SS席 15,400円 S席 13,200円 A席 9,900円 B席 7,700円 C席 6,600円  
D席 5,500円 E席 4,400円 U30席 3,300円 U24席 2,200円  
発売日 2023年7月8日（土）  
問合せ びわ湖ホールチケットセンター  
077-523-7136 10:00-19:00（毎週火曜日休館）  
WEB [https://www.biwako-hall.or.jp/performance/die\\_fledermaus2023](https://www.biwako-hall.or.jp/performance/die_fledermaus2023)  
主催 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

**[東京公演]**

日時 2023年11月25日（土）14:00 開演  
会場 東京芸術劇場コンサートホール  
料金 【全席指定】（税込）  
SS席 16,000円 S席 14,000円 A席 11,000円 B席 7,000円 C席 5,000円  
D席 4,000円 E席 3,000円 高校生以下 1,000円  
発売日 2023年7月1日（土）  
問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス  
0570-010-296（休館日を除く 10:00-19:00）  
WEB <https://www.geigeki.jp/performance/concert272/>  
主催 東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団東京芸術劇場

**[山形公演]**

日時 2023年12月17日（日）14:00 開演  
会場 やまぎん県民ホール大ホール  
料金 【全席指定】（税込）  
SS席 14,000円 S席 13,000円 A席 11,000円 B席 9,000円 C席 7,000円  
U25 S席 6,500円 U25 A席 5,500円  
発売日 2023年7月29日（土）  
問合せ やまぎん県民ホールチケットデスク  
023-664-2204（休館日を除く 10:00-19:00）  
WEB <https://yamagata-bunka.jp/event/2023/12/17040455.html>  
主催 山形県総合文化芸術館指定管理者みんぐるやまがた／山形新聞・山形放送